

高専

# 有明高専だより

第136号  
2012.2



特集 私の学生時代（有明高専アーカイブ）	2・3
シリーズ 卒業を控えて	4・5
シリーズ 人物・いま	6・7
2011 アラカルト	8・9
シリーズ 研究室訪問	10
シリーズ 企業（卒業生）訪問	11

デザインコンペティション／体育系部活動リーダー研修／ 冬季球技大会／専攻科ボスターセッション／ 吹奏楽部定期演奏会	12・13
新学生会、学生会役員研修	14
岱明寮だより	15
トピックス／編集後記	16

※本文中に於いて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、但し、6・7は専攻科1・2年。M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、但し、2年生は学年 - 組)

## 短期集中 シリーズ

# 私の学生時代(有明高専アーカイブ)

今回の有明高専アーカイブは、本校を卒業された後、現在、本校で教員として在職されている先生方に、Q1在学当時の学校の様子、Q2在学時の一冊の思い出をお聞きしました。次回は、平成元年からの10年程を特集しますので、右ページの4名の先生方に関する写真は次号に掲載します。



S46頃の校舎地区

高専祭でのフォークダンス(S46)



物質工学科  
川瀬 良一  
昭和44年(1969)  
工業化学科入学

**A1** 学園紛争の影響が有明高専にもあり、学内には学生が作成したビラなどが貼られていきました。学校の周りには家は無く、古墳の上に立つ寂しげな学校でした。しかし、建築学科が設置されて2年目で、学生も先生も元気が良かったです。

**A2** それは卒業研究です。その後の私の人生を決めるものでした。4年生までは単位修得のため、仕方なく勉強していました。また、卒業後はどんな職業に就きたいかも考えていませんでした。5年生の4月に卒研指導の樋口先生から、研究内容はある物理化学的な不思議な現象を解明することだと説明を受けました。私も不思議に思い、現象を解明しようといろいろと考えたり、実験したりしました。ところが、これが意外と樂しい。よし、卒業後の職業は「研究職」にしようと、勝手

に決心しました。しかし、研究職に就くには能力が足りないことに気付き、就職を止めて、当時はほとんど行く人はいなかった大学への編入を選択しました。12月に試験を受けたのですが、見事に不合格でした。でも、意外と絶望はしませんでした。

2月になって、就職を決意したのですが、オイルショック直後で求人はありませんでした。海と船が好きだったので、担任でもある卒研指導の樋口先生に日立造船(株)へ売り込んでいただき、また、役員面接では研究所勤務を切望して、幸運にも希望通りに就職することができました。就職後、多くの方のご支援もあり、12年で「工学博士」を取得し、その後、3年して本校に着任しました。現在も教育と共に研究も続けています。また、趣味で海とも付き合い続けています。



電気工学科  
川瀬 良一  
昭和44年(1969)  
電気工学科入学

**A1** 入学当時の学校の様子として特徴的なことは、校舎は建築棟までできており、ほとんどの建物はでき上がっておりました。図書館棟がこれからできるというような頃で、現在の図書館敷地は芝生の広場っていました。

**A2** 思い出は書ききれないくらいにたくさんあります。やはり高専祭や体育祭のことと部活動(バレーボール・文芸部)に関することが多いです。その頃は毎年、高専祭と体育祭の両方が実施されていたので、現在のような時間をかけた素晴らしい内容の体育祭ではなかった気がします。むしろ高専祭の方が、いろいろな展示に時間をかけて準備していたと思います。

高専祭での一番の思い出は、8ミリ映画を制作して上映をしたことです。私が脚本と監督を担当し、主演男優・女優は文芸部の後輩に、カメラマンは先輩にしてもらいました。文芸部の顧問だった樋口先生の子どもさん(小学生3、4年生だった)にも出演してもらい、夜の荒尾駅でロケを行いました。そのあと列車に乗り込み車内のシーン、玉名駅で降りてホームで待つ子連れの女性の姿を撮り、その後に来る上りの電車に乗り換えて荒尾駅まで戻って、また駅のシーンを撮る、ということもしました。通学生の帰宅時間もあり、人垣の中で、恥ずかしさをかなぐり捨てて撮影をした懐かしい思い出です。そのほか大牟田・荒尾の街中を撮影して、約1ヶ月かけて15分くらいの8ミリ映画に仕上げました。

卒業後、11年間の企業生活の後に高専に転職しました。転職後部室に行って映画のフィルムを探しましたが、フィルムの方は残っていたものの音声テープがなくなっていました。残念でした。



建築学科  
上原 修一  
昭和46年(1971)  
建築学科入学

**A1A2** 「入学時、南関町から50分をかけて砂利道を自転車通学していた私は、運動量は十分と考え、文化部であるESSに入りました。外国文化に、憧れと好奇心があつたためです。入部すると、電気工学科5年生にすごい先輩がおられてびっくりしました。当時、熊本から米国人宣教師が、月に1回来ていましたが、その先輩は、その米国人宣教師とペラペラと会話していました。当時の英語の先生より上手いのではないかと思ったほどです。卒業後渡米され、今は宣教師をされています。

当時のESSの大きな活動は、夏の英語弁論大会と秋の英語劇(高専祭のとき武道場で)です。日ごろは、ラジオ講座の英語会話を暗誦するというものです。大学のESSも基本的には同様の活動ということを後に知ります。英語劇は、イーノック・アーデン、ロミオとジュリエット、ハムレット、ベニスの商人、真夏の夜の夢などシェークスピアが多かったです。台本選びのほか、舞台、背景、大道具、小道具、衣装は手作りでした。楽しい、懐かしい青春の思い出です。英語弁論大会では、なかなか入賞できなくて、悶々とした記憶がありますが、最後には、滑り込みで入賞し、非常に嬉しかったです。部活動で得た宝は、やはり先輩、後輩、友人です。そのお一人が、昨秋物質工学科で講演された福島さん(元富士フィルム、萩尾坂44号)です。海外勤務17年で、学生時代の夢を実現されました。プラントエンジニア内田さんも世界各地で石油精製基地やLNG基地の建設に活躍されました(萩尾坂39号)。そのほか、多くの方との交流が続いているです。

自分の進路には悩みました。オイルショックによる不況、それに続く総需要抑制策で、ずいぶん右往左往させられました。現在の学生諸君も、厳しい状況におかれていますが、しっかりと自分を磨き、目標を定めて進めば、夢は実現します。自分を信じて、挑戦してください。



**電気工学科**  
**尋木 信一**  
平成元年(1988)  
電子情報工学科入学

A1 私は電子情報工学科の1期生として、本校に入学しました。当時は学力試験後、親も含めた面接があり、「どの科目が一番悪かったか?」の問い合わせに、「社会です」と答えると、「うん。そうだね。かなり悪いね。」と言われた時には落ちたと思いました。入学してみると、I科の先生は1人で、I科棟も建っていない状態でした。他にも今と違う点はと言えば、生物棟が自転車用駐輪場だったり、3年生まで一般教育棟で、4・5年生が専門学科棟だったり、新入生歓迎行事は朝から遠足に行って、現地で「聞こえーん」をやったり。I学科はと言えば、学科として独立したのは3年の高専祭からです。何にもないところからのスタートだったので、自分たちの好きなことをやらせてもらった分、何かを生みだす大変さと喜びを知りました。なお、1年時は高専祭でひっそりとクラス展示、2年時はE科と合同チームで体育祭に参加しました。

A2 在学時一番の思い出と言えば、とにかく楽しかったです。学科として独立してからの3年間、副団長をやったこともとてもいい思い出です。そう言えば以前は、全校集会の際、学科毎に団長・副団長が前に出てクラスを整列させていたように思います。私は団長にくつついでいただけで、すごいのはうちの団長です。同じく3年間団長だったので、お察しの通り、彼は4回も阿蘇研を行ったことになります。

クラスの仲間にも恵まれました。非常にまとまりがあって、例えば1年時に数学の先生が退職されると聞きつけると、最後の授業の終わりに花束を渡したり、球技大会のために手作りの横断幕を作ったり、女の子たちが団子を作って来てくれて岩本橋で月見会をやったり、卒業後に車5台で卒業旅行に行ったり。

携帯電話やFacebookなど無い時代でしたが、そうやって温めた付き合いが、卒業して18年たった今でも続いています。



**物質工学科**  
**永田 和美**  
平成6年(1994)  
物質工学科入学

A1 電子情報工学科初の卒業生を送り出してすぐの入学で、私たち自身も物質工学科の第1期生(一つ上までは工業化学科)でした。

駐輪場だった場所に生物棟が建ち、新しい建物で研究できました。その他の校舎は古く、ちょうど私たちが卒業するころに改修が始まりました。改修前は現在の一般教育北棟に1~3年までの教室があり、専門棟には4年生から入りました。

女子の制服は私たちの二つ上から今と同じブレザーに変わり、ちょうど入れ替わりました。クラスには女子が多く、C科全体でも女子が男子を上回っていました。雪が積もった日には授業が雪合戦になつたりしていましたが、赤点(50点)は4教科8単位までしか許されず、年度末の再試に合格しなければ即留年でした。ルーズな部分もあればシビアな部分もありました。

A2 今でこそ有名なマイクロバブルですが、実は有明高専でその研究を始めたのは私なのです。当時はまだ何も解明されておらずとにかくデータを集め毎日でしたが、それが楽しくて遅くまで居残って実験していました。卒研発表では先生方から質問攻めにあいましたが、学会賞をいただいたら5年生にして学会発表させてもらったりと貴重な経験ができました。

他にも新歓での一発芸や阿蘇研での校歌など定番の思い出は多々あります。私ならではと言えば学生会のことでしょう。高専祭では企業に直接スポンサーの交渉をし、パンフレットに載せる広告のデザインを任せられました。体育祭では放送局として進行を務めましたが、グラウンドだと自分の喋る声よりも反響して聞こえてくる遅れた音の方が大きいため、慣れるまで苦労しました。他にもたくさんの思い出があります。



**建築学科**  
**岩下 勉**  
平成3年(1991)  
建築学科入学

A1 窓はスチールサッシュ、エアコンはない。冬場はスチーム暖房で、通学生はその上にお弁当を置いて温めていました。

・当時も高専祭・体育祭は盛り上がっていました。体育祭への熱の入れ方は今の方がすごいと思います。

・新入生歓迎行事は1日かかり!学校から歩いて小岱山まで行って、歓迎会を行っていました。

・入学時は就職倍率20倍!しかし、在学中に、バブル崩壊、卒業時、特に女子は就職が非常に厳しいものでした。しかも、今ほどの就職に関するサポートはなかった時代でした。

A2 「高専だより」で書くべきことが見当たらないので、別の視点で書いてみます。と言うのも恥ずかしいことに僕自身在学時に「自ら何かを必死に取り組んだ」ということがありません。学校では日々「与えられる授業や課題をこなす」という、余り面白くない学生だったと思います。幸いなことに成績は比較的良かったので大学へ編入することが決まったのですが、「こんな自分が大学で本当にやって行けるのか」という不安を持っていました。しかし、大学に入ってみるとその不安は払拭されました。大学生である友人たちと十分戦うことができたのです。僕が負ける部分ももちろんありましたが、勝っている点(特に、建築の専門知識は圧倒的)もありました。そういう中でお互い切磋琢磨して成長することができたと思います。特に高い志を持って過ごした訳でない僕が、大学で何とかやっていけたのは有明高専で受けた教育のおかげだということが、後になってわかりました。一番の思い出とは異なりますが、有明高専で5年間を過ごせたことが僕にとって重要なことだったと思います。



**機械工学科**  
**篠崎 烈**  
平成8年(1996)  
機械工学科入学

A1 A2 有明高専を卒業してから11年が経ちましたが、学生時代の記憶はなかなか忘れないもので、それだけ印象深かったということだと思います。そのような中で、私の学生当時の思い出を選ぶとすれば、この2つでしょうか。

- [1]「夏は暑く」「冬は寒い」という古い建物で勉強した最後の学生だったこと
- [2]専攻科1期生が同級生で、「彼らに負けた…」と思ったこと

当時は、冷房や暖房が無く、夏は暑く、冬は寒い教室での勉強でした。卒業研究で頭が働かない時は、冬場の教室の窓を開けて頭を冷やしながら制御の計算をしたものでした。よくよく考えてみると私が5年生の時に卒業研究をした部屋は、今の機械工学科棟で言えば「女子トイレ」になっている所ですし、今の私の教員室の場所が「5Mの教室」でした。偶然でしょうか、今は無い部屋達ですので、ある意味ではいい思い出です。そして、現在の建物に改修される前の古い建物で勉強した最後の学生が私達でしたから、教員として戻って来た時に新しい建物で仕事ができることは、とても嬉しかったことを思い出します。

こんな私が高専5年生の4月に進路を決定する際、次の年から専攻科が設置されることが決まったということで大学に進学するか、専攻科1期生として進学するか、とても迷ったことを覚えています。結果的に大学に進学することを選びましたが、編入して半年後、専攻科に進学した同級生が大学に来て研究発表しているのを見たときには、とても焦りました。一步も二歩も先を行く「専攻科」というシステムを「スゲー!」という憧れで見ていました。

そして何よりも、有明高専の学生として過ごしたから得られたものは、5年間と一緒に過ごした友達が「一生の友達」であることです。混合学級がなかった当時ですから、5年間を同じメンバーで過ごして、「男」だけの38人で卒業しました。今もおられる先生方に迷惑もかけました。残念ながら亡くなつた同級生もいますが、それでも高専時代と一緒に過ごした仲間だから、「卒業して11年経つ今でも集まる」、そう思います。

## シリーズ

## 卒業を控えて

卒業を控えた5年生の皆さんに、5年間の思い出やこれから抱負等を語っていただきました。



司会：一般教育科 山崎 英司

出席者：

5M 白谷 康太郎 さん（硬式テニス部／JR東海）

5E 田中 宏樹 さん（バスケットボール部部長／豊橋技術科学大学進学）

5I 守田 遥 さん（I科女子応援団長／オムロンフィールドエンジニアリング九州）

5C 衛藤 麻優 さん（天文部副部長／大阪ガス）

5A 里中 拓矢 さん（弓道部部長／専攻科進学）



司会：山崎

**山崎** 卒業研究等でお忙しいところ、今日は卒業を控えた皆さんとの座談会にお集まりいただきありがとうございました。よろしくお願ひいたします。まず皆さんのお名前・所属学科・課外活動・来年度の進路について教えてください。（上記の通り）

**山崎** では、この5年間で一番印象深かったことをお聞かせください。

**白谷** やっぱり部活動ですね。練習試合や上下関係といったところが印象深かったです。下級生のときは大変でした。

**田中** 自分もやはり部活動ですね…。キャプテンとして部員をまとめたり苦労したことよく覚えています。

**守田** 一番印象に残っているのは、やっぱり体育祭です。自分がやっていたのは電子情報工学科の女子応援団の団長で、演舞が終わった後の感動はとても強かったです。これまで練習してきたものを出しきった充実感はすごかったです。でもすぐに次の学科の演舞が始まっちゃうので、あまり余韻に浸ることもできなかったのが残念でした。

**衛藤** じゃあ、私も体育祭ということで（笑）。

**里中** 部活動も印象深かったですが、最近ではやはり体育祭ですね。

**山崎** 君たちは5年間で3回もの体育祭を経験した世代ですから、体育祭に関する思い入れはより一層強いのかもしれませんね。とくに里中君は実行委員長だったから、「裏方の苦労」といったものもあったのではないかでしょうか？

**里中** そうですね、あんまり…いや、大丈夫です。みんなよくやってくれました（笑）。個人的には学科のパート活動と、体育祭実行委員としての仕事の両立が難しかったです。



田中さん

**山崎** そうですか。それでは今度は5年間の中で「これは大変だった」ということはありますか？

**白谷** 1年生の時の体育祭です。パネルです！

**田中** 今、自分たちは卒研をやっているんですが、5年間を通じてそういう研究やレポートがとてもきつかった印象がありますね。とくに、4年生のときがテストも一番多かったりして大変でした。

**守田** 私もやっぱり勉強ですね。卒業までたどり着くことができたのは奇跡だと思います。自分は2年生のときに成績がかなり落ちてしまって、もう終わってあきらめかけたんですよね。

**衛藤** 私は、通学が大変でした。自宅が福岡市内だったので、通学に毎日2時間かかるんですよ。だから卒研で学校を出るのが9時とかになると、帰るのが終電近くになるこ

ともあるんです。

**山崎** 電車の中で勉強はしないのですか。

**衛藤** 無理ですね、すぐ寝てしまいます（笑）。

**里中** 建築学科の学生ならば、大変だったのは、たぶん設計や製図でしょうね。また、なかなかその大変さが他の学科の友達にわかつもらえないのも大変でしたね。

**山崎** 次に、今振り返ってみて高専での5年間で「これをしておけばよかった」というようなことはありますか？

**白谷** 僕は、本当は専攻科に行きたかったんですが、TOEICのスコアが足りなくて就職を選択したんです。最初は専攻科進学のためのTOEICスコアの必須条件が330点だったのですが、初めて学内で受けたとき330だったので、それ以降TOEICの勉強をあまりしませんでした。すると自分が5年生になったときに条件が350にあがって…、英語の勉強不足が響きました。

**田中** 自分も同じですね。専攻科に行きたかったんですが、350点が取れずに別の進路を選択したというところもあります。愛着のある有明高専の専攻科に進学したかったのは本当です。

**守田** 私は、「授業を聞いておけばよかったな」ということに尽きます。とくに3年生のときに強くそう感じました。3年生の授業内容は1・2年生のときの応用のようなものが多く、しっかり積み上げておかないと対応できないものが多くなったんです。だから低学年の時にもっと真面目に授業を聞いておけばよかったと後悔しましたね。

**衛藤** 私は、資格をもっと取っておけばよかったと思います。就職のときに履歴書に書くべきことが何もなくて、もっと資格取得を真剣に考えておけばよかったと後悔しました。

物質工学科では、危険物取扱と工業英語などが取れます。周りにはきちんと資格を取っている人はいたので、私もそうしておけばよかったと上級生になって実感しました。後輩たちにも在学中に資格をとることを強く勧めたいです。

**里中** 自分は、そうですね…特に…あまり思いつかないです。ただ、社会に出ると学生時代よりも時間が自由に使えないと思うので、もっと友達と旅行に行ったりしたかったというのはあるかもしれません。

**山崎** では後輩へのアドバイスなどを願いします。

**白谷** 「ほどよく勉強する」ということですかね。やりたいことと勉強をうまく両立させてほしです。

**田中** 何か熱中するものを見つけてほしいです。部活動や体育祭など目標に向けてがんばる経験を積んでもらいたいですね。

**守田** 私は、先生や職員の方とたくさん話すことで、いろいろ得られるものがあったので、もっと教職員の方と触れ合ってもらいたいです。

**衛藤** 私は学校行事に積極的に参加し始めたのが4年生からだったので、低学年のうちからそういった行事に積極的に参加した方が楽しいと思います。

**里中** 部活でも体育祭でも、悔いが残らないようにやりとげてほしいです。学校という場所はやりたいことを突き詰めることができる場だと思うので。

**山崎** 後輩への貴重なアドバイス、ありがとうございます。では5年間で感じた学校に対する要望、「こうしてほしいな」というご意見を聞かせてください。

**白谷** 部活動や就職試験などのやむを得ない理由で欠席する場合にも公認欠席にならないのが困りました。また交通機関の遅れなどが原因の場合でも、遅刻数や欠席数がついてしまうのが嫌でした。特別欠席でいざというときに配慮されるのは知っていますが、就職試験などで欠課数が増えると、病気のときなど「休める日数が減った」というプレッシャーを感じて無理に登校して病気をこじらせることがありました。

**田中** 機械工学科と電気工学科に女の子を増やしてほしいです。僕の意見ではなく電気工学科を代表しての意見ということでぜひ(笑)。

**守田** テスト返却のときに全科目コピーをもらひたかったです。テストの解答用紙が回収されてしまい、自分の手元に残らないのはちょっと気になりました。あと赤点の基準が高いのをなんとかしてもらひたかったです。3年生からJABEE対応のために赤点が50点から60点に引き上げられるんですが、専攻科に行く学生にしか意味がないのに、就職する私たちまで厳しいボーダーを超える必要があるのかなと。もう少し段階的にボーダーを引き上げていければいいのかなと思います。3年生の時点でいきなり10点あがるのは厳しかったです。

**衛藤** 夜に守衛さんの戸閉まりがあつて8時ぐらいに各棟の扉が閉まってしまうんですよね。それで夜が更けて卒研が終わった時にわざわざ遠回りしてバス停に行かないといけないのが大変でした。たまにバスに間に合わなかったり、校内でも電灯がついてなかつたり…。ヒールを履いて下校していると、暗い階段で転んでしまって階段から転落したことも何度かありました。

**里中** 僕も衛藤さんの話と少しかぶるんですが、卒研やコンペなどの追い込みのときに校内に泊まることができないのが不便だと感じることがありました。難しいところはあると思いますが、夜にじっくり校内施設を使って作業をしたりすることができないのは大変でした。

**山崎** ところで教職員に関するご意見はないですか?

**里中** 英語の先生に対してかなり失礼かもしれませんのが、英語の授業を受けていて「このまま授業を受けていても英語力があがらないだろうな」という印象を持っていました。

**山崎** それは英語教員としてかなりショックですね(笑)。逆に英語力をあげるためにはどうすればよいと思いましたか?

**里中** それがどうすればよいのか僕にもわからないんです。もっとまじめに授業を受けていればよかつたのかもしれません、「こうすれば必ず英語力が上がる」という実感が得にくかったように思います。

**山崎** 進学校のようにもつとハードな授業を展開した方がいいのかな?

**里中** ハードにされると今度は授業がわからなくなるんですけどね(笑)。

**山崎** 「これなら英語力が伸びる」と学生が実感できるような授業を行ったり、自分の英語力を高専の同級生や普通

高校の学生と比べたりできるような機会をもっと設ける必要があるのかもしれませんね。厳しいですが貴重なご意見ありがとうございます。他に何かありませんか?

**守田** 授業とは関係ないのですが、もっと校則を緩くしてほしいと思います。実際、普通の高校よりも校則が自由だ、と思って入学してくる人も多いのですが、入学してみると案外厳しいなど。

**白谷** 3年生までは高校と一緒にわかるんですが、有明高専の場合は大学生と同じ4・5年になつても高校と同じ校則に縛られるのは変だな、と思うことはあります。

**田中** あと自転車通学がちょっと大変です。自転車でも通学に25分ぐらいかかるので…。

**白谷** 自分も原付の通学距離制限をもう少し緩くしてほしいですね。

**守田** 情報棟から駐輪場までがかなり遠いので、情報工学科の学生は情報棟裏の駐車場に駐輪させてほしいです。

**山崎** 駐輪場のキャパシティーに限界があるので希望者全員の原付通学を認めるのは少し難しいかもしませんね。では、次に有明高専を卒業して、どういった社会人になりたいかをお願いします。

**白谷** まだ配属先が決まってないので正確なことは言えないんですが、専門的な技術を学んで資格を取得し、仕事に活かせていただいたらと思っています。会社のためにも自分自身のためにもスキルアップをしていきたいです。

**田中** 自分はお金を貯めて海外に行きたいです。東南アジアとか今まで行ったことがないような所を旅してみたいですね。

**守田** たくさんお金を稼いで、いっぱい遊びに行きたいです(笑)。

**衛藤** 仕事もがんばりたいですが、いつかは幸せな家庭を築きたいです。

**里中** 僕も専攻科在学中に海外に行きたいです。

**山崎** 皆さんそれぞれに自分自身の夢を持っているようになります。では最後に有明高専に来てよかつたがあればどうか教えてください。

**白谷** 受験勉強がないのでやりたいことができるうえに、就職先に恵まれているところですね。

**田中** レポートなどはあるけれど、受験のための課外授業もなく自分の好きなように学生生活を送れたことです。

**守田** 普通高校と違って1年生から専攻科生まで幅広い年代の人々と交流することができたことや、かわいい職員さんと話したりできたことです。

**衛藤** 5年間も同級生と一緒にいるのでお互いのことがよく理解でき、一緒に成長できたと実感できたところが良かったです。

**里中** 有明高専に来なければ今の高専でできた親友たちと会うこととなかったでしょうから、ここに来てよかつたと思っています。

**山崎** 皆さんのが5年間を懸命に過ごして「有明高専に来てよかつた」と言っていただけることが、我々教職員にとつての何よりの喜びです。今後も高専で築いた人とのつながりを大切にして、新しい生活を充実したものにしていってください。今日は座談会におつき合いいただきありがとうございました。



守田さん



衛藤さん



里中さん

# シリーズ 人物・いま

## 退職教員

平成24年3月をもって退職される4名の先生方に、次の3つの質問に答えていただきました。

Q1 高専で最も思い出に残ることは? Q2 高専あるいは学生に望まれることは? Q3 今後のことについて一言



### 一般教育科 教授 荒木 眞

- A 1 :** 十分な社会経験もない、いたらない先生でありながら、クラス担任や部活動顧問などをやって、学生諸子には何の有益な指針も与えられませんでした。しかし、卒業後、それなりの地位について部下を持ち、りっぱに会社のため、社会のために貢献されているのを見ると、ああ、あのやんちゃなあいつが立派になってと高専時代の彼らの思い出に耽るのである。
- A 2 :** まいにち毎日コツコツと一所懸命ただひたすら~。無遅刻、無欠席でがんばる~。華やかで、やがて悲しきティーンエイジャー。
- A 3 :** あと3年はなんとか生きていこう。ご飯やお味噌汁を作ったり、洗濯や縫い物をしなくちゃ~。たまには旅もいいかな?



### 電子情報工学科 教授 中村 俊三郎

- A 1 :** 平成2年にやってきました。今の専攻科1年生が生まれた年です。来てまもなく新入生の歓迎行事がありました。小岱山への歓迎遠足。学生たちが長い列をなして山に登っていく情景が時折思い出されます。
- A 2 :** 自分が学生の皆さんと同じ年頃のときのことを考えると、自分は随分脳天気に過ごしていたと思います。今は自動車も多くなっていますし、就職は厳しくなっていますし、いろいろなことに気を配って生きていかなければならないのではないかという感じで、どうぞ気を付けて元気で生きていってください。
- A 3 :** 「風邪を引いても世界観は変わる、ゆえに世界観とは風邪の症状である」とチェホフは記しているらしい。辞めてからの世界観を楽しみにしています。



### 物質工学科 助教 永田 和美

- A 1 :** 私は本校卒業後4年間大学に行き、それから着任したのですが、先生や事務の方々にも覚えてもらっていて、よく声をかけていただきました。人と人とのつながりを感じました。また、現在進行形ですが、担任をしている3Cのみんなとのことは一番の思い出になるでしょう! クラスT、大事にします。
- A 2 :** とにかく何かに一生懸命になってほしい。部活でもいいし、趣味のことでもいいし、恋愛でも。本当は勉強に打ち込むのが一番ですが、特に何もすることなくボーッと過ごすのはモッタイナイ。騙されたと思って、これからの中高生活、何かに一生懸命になって過ごしてみてください。
- A 3 :** 夫の職場の近くに引っ越して、しばらくは子育てに専念します。卒業生であることは変わらないので、たまに顔を出すと思います。



### 建築学科 助教 飛田 国人

- A 1 :** 5A学生を3A副担任の時から見てきたことです。笑いあり、涙あり、ハプニング満載の3年間が、学生を成長させるとともに、私の考え方にも大きな影響を与えてくれました。特に進路指導、体育祭、研修旅行が印象的です。これまでの人生で一番刺激的な3年間でした。
- A 2 :** 学生はビジョンを持ちましょう。仕事・遊び・家庭・モノなど、どんな生活を送りたいのか、そのためにどう行動するのかを想像せずに毎日を過ごしていませんか? 今が幸せで、将来はもっと幸運になれるよう日々を過ごしてください。
- A 3 :** 私のビジョンでは、料理ができる、独語が話せ、定時に帰宅し、妻とお酒を飲みながら語らう、休日はスカイダイビング、ケンタロウさながらの生活を既に送っているはずだったのに…。これから実現させます。まずはABCクッキングに通おうか。

## 永年勤続表彰

永年勤続20年の2名の先生方に、思い出などをお聞きしました。

Q1 20年間の一番の思い出

Q2 20年前と今について

Q3 学生に一言

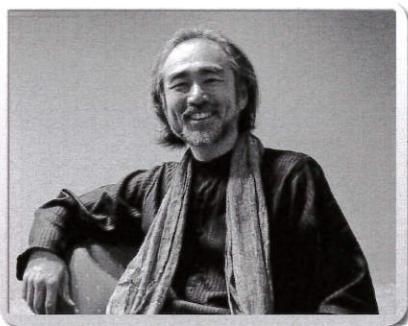


電子情報工学科 教授 菅沼 明

**A1**：約10年前に在外研究員として、イギリスのギルフォードという町に10か月間滞在しました。英語は得意ではなかったけど、研究もどうにかなりました。人間、追い込まれるとどうにかするものですね。楽しい思い出です。

**A2**：私が大学に就職したころは、NEC社製のPC-9801シリーズというパソコンが全盛のころでした。主記憶が1MB程度、動作クロックが10MHz程度というものでした。現在のPCはその千倍以上の能力を持っています。人間の能力は20年間で何倍になつたでしょうか？

**A3**：現在の状況に満足してしまったら進歩はありません。20年前のPCは使いにくかったので、現在のPCに進化したのだと思います。何事も「もっと良くするにはどうしたらいい？」と考えることから始まります。



一般教育科 教授 山口 英一

**A1**：1996年3月から翌年1月まで在外研究員としてインドの研究所に滞在し、専門分野の古典文献研究のほか、現在のインド文化に関して多くの情報を得られたこと。この経験がその後の研究の広がりにつながりました。

**A2**：ヒゲと髪が白くなったこと。髪が減ったこと。体力が落ちたこと。学生に甘くなうこと。

**A3**：赴任当初からインドを中心にアジア諸国との文化を紹介してきました。自分たちとは違う考え方・物の見方を知り、柔軟で広い視野を持ってくれることを願っています。

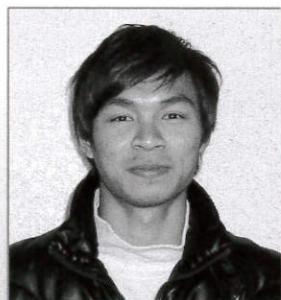
## 卒業を控えて（留学生）

卒業を控えた2人の留学生に、思い出などを書いてもらいました。



5M アルマン

日本の技術が母国より優れているので、私は中学生頃から日本に留学することを希望していました。母国を出てから日本で過ごしてもう3年経ちました。その期間は有明高専で生活してきました。最初日本にきた時、日本語があまり分らなくて少し不安な気持ちを感じていました。今でも日本語をもっとうまく話せるように毎日勉強しています。日本で生活する上であいさつや厳しく時間を守る習慣などを身につけようと思います。それから日本のさまざまな文化もチャンスがあれば体験してみたいです。私は日本にきて、有明高専でこの3年間ではいろいろなことがあります、良いことだけではなく、良くないこともあります。困難の時、先生方やクラスのみんなから手伝ってもらうことにより心から本当に感謝しています。卒業の後、皆さんとは違う道に進みますが有明高専でのいい経験を持って行きます。皆さんいろいろありがとうございました。



5M カマル

2009年の4月に福島高専に入学しました。福島高専で初めて日本人の友達を作り、日本文化を身に付け、寮生の生活を体験しました。一日一日を過ごすうちに日本の習慣や日本人の性格もだんだん分かってきました。

しかし、2年間ぐらい福島高専にいて、考えられないことが起こりました。2011年の3月11日非常に大きな地震が発生しました。その地震と発生した津波のため福島原発事故が起り有明高専に転校することになりました。初めて有明高専に来たとき、学校の職員や先生方から心温まる歓迎をされて、感動しました。来たばかりですが、皆が親切で、いっぱい友達を作りました。来たばかりの問題はここの方言がぜんぜん分からないので、いつも相手の話しが聞き取りにくいです。でも、友達から一日一日言葉など教えてもらったり、話したりして、少しずつ分かりました。授業もさっぱり分からなかったとき、先生方や友達から教えてもらって、とてもありがとうございます。感謝します。今年度の体育祭は私にとって初めてだから、とても楽しかったです。応援団、騎馬戦などを見ることができて、嬉しかったです。みんなと協力したり、遊んだり、食べたり、笑ったりして、貴重な思い出になりました。皆さんの優しい笑顔、心をこめたあいさつをいつまでも忘れられません。皆さん、心から本当にありがとうございます。機械科サイコー！！

# 2011 アラカルト

## シンガポール・ポリテクニック学生来校

### 国際交流委員会

12月12(月)から20日(火)、本校が姉妹校協定を結んでいたシンガポール・ポリテクニック(SP)の10名の学生と1名の教員の皆さんとが交流のため本校に滞在されました。

滞在中は、本校の岱明寮に宿泊し、寮生との交流を図るとともに、週末には本校学生の家でホームステイ(2泊3日)を体験しました。また、ホームステイ受け入れの学生や寮

生たちとの阿蘇旅行、キャンパスツアーや研究室訪問、部活動体験、球技大会参加、専攻科授業への参加、太宰府天満宮見学、熊本城見学、万田坑見学等々、様々な体験、交流、見学を行いました。

SP学生と接した本校学生にとっては、良い刺激になるとともに、海外を身近に感じることができたと思います。



歓迎会でのあいさつ



ホストファミリーとの顔合わせ



歓迎会での懇談



3A学生との交流



各学科への研究室訪問(M科)



専攻科授業への参加



安部先生による日本語の授業



部活動体験(剣道部)



球技大会 試合を終えて



太宰府天満宮にて



熊本城見学



送別会でのあいさつ

## 福岡モーターショー2012で2つの賞を受賞

### 自動車工学研究部 3M 柿原 大輝

私たち、自動車工学研究部は1/27(金)～1/30(月)に開催された「福岡モーターショー2012九州学生製作車両展」に出展させていただきました。この車両展では、九州内の大学・高専・専門学校・県立工業高校で製作された15台のエコランカー、学生フォーミュラーカー、ソーラーカー等が展示されました。部では昨年エコマイレッジチャレンジ九州大会で約800km/lの記録で優勝した車両を出展しました。展示においては同時に九州にある自動車メーカー3社の技術役員の方によるピアリング審査が行われました。審査の結果、私達の出展車両が、エコランカーおよびソーラーカーを交えたエコカー部門の最優秀賞に選ばれました。さらに、同時に行われていたインターネットによる人気投票でも1位を獲得し「福岡モーターアワード2012」にも選ばれることになりました。

同展への出展は今回で第2回目となりましたが、製作した車両に自動車メーカーの方々を始め、たくさんの方々(学生車両展来訪者数約46000人!)に興味を持っていたらしくことができ、部員一同とても嬉しく思っています。次回の大会では1200km/lを目指して頑張りますので、これからも応援よろしくお願い致します。



## ロボコン全国大会 5年ぶりの出場!

5M 徳久 元気



国技館の前で記念撮影



1回戦前の選手たち



2回戦での攻防



特別賞を受賞

## プログラミングコンテスト 競技部門で第3位!

5I 上原 耀

平成23年度のプロコンは、東日本大震災の影響により、主管校が一関高専（岩手県）から舞鶴高専（京都府）へと変わり、12月22日（木）・23日（金）に開催されました。

参加した部門は競技部門で、全64チーム（内、海外チーム4つ）が参加していました。

当日の日程は、1日目には1回戦。2日目には敗者復活戦、準決勝戦、決勝戦となり、有明高専は1回戦：2位、準決勝：2位、決勝戦：3位という良い結果を残すことができました。

1日目の夜には学生交流会があり、1グループにつき14人前後の高専生が配置され、多くの人と交流を深めることができました。

来年度のプロコンは有明高専が主管校となるので、現在4年生以下の学生が一丸となって次回のプロコンに取り組んでもらいたいと思います。



## 演算増幅器設計コン テストで第1位!

7I 野口 卓朗

私の所属する石川研究室では、数年前から演算増幅器設計コンテストに参加しています。今年度のシミュレーション部門で、私の設計した演算増幅器が1位に入賞し、12月2日（金）に東京工業大学で行われた発表会・表彰式に参加してきました。高専生が1位になるのは大会史上初とのことで、大変嬉しかったです。

大手企業の方や著名な先生方の前で発表するのは緊張しましたが、表彰式や懇親会でいろいろなお話を伺うことができ、貴重な経験をすることができました。

今年度は、同研究室の5I山内君も同部門で7位に入賞しており、初のダブル受賞となりました。私は佐賀大学大学院に進学しますが、大学院生もコンテストに参加可能なので、来年度以降もまたチャレンジしたいと思います。（写真左 筆者）



## シリーズ 研究室訪問

今回は、電気工学科の清水先生と一般教育科の菱岡先生にお話を伺いました。（聞き手：電気工学科 森山賀文）

### 清水 晴生 研究室（電気工学科）

- 着任されてから1年が過ぎようとしていますが、着任当時と印象が変わったもの（こと）はありますか？

活発な学校だということを感じました。ベンチャー・ビジネスプランコンテストや演算增幅器設計コンテストなど、非常にハイレベルなコンテストに参加し、いくつもの賞をとっていることに驚きました。

- さて、現在の研究テーマとその概要を教えてください。

アナログ集積回路に関する研究をしています。パソコンや携帯電話などの電子機器の中には様々な集積回路が入っています。現在、集積回路の微細化が進んでいますが、アナログ回路を微細素子で実現しようとすると、様々な問題が生じます。私の研究では、これらの問題を解決し、微細素子において高性能なアナログ回路を実現することを目的としています。

- 研究者になろうと思ったきっかけを教えてください。

大学での研究がきっかけです。小さい時から理科が好きで、ファーブルやAINシュタインなどの学者に憧れています。勉強は苦手だったのですが、大学の研究を通して勉強や研究の面白さを知り、研究者になることを決めました。

- 研究で心がけていることをお聞かせください。

わからないことがあっても、納得できるまで考えたり調べたりするように心がけています。わからないことから逃げても、再び、そのわからないことでつまずくからです。

- 新たに興味を持たれていることや、これからやってみたいことはありますか？

今後は、アナログ回路設計支援ツールを開発しようと考えています。アナログ回路設計には膨大な知識と経験が必要です。アナログ回路開発がもっと簡単で、短期間でできるようになれば、電子機器の価格が下がり、多くの人が平等に高機能な電子機器を使えるようになると考えています。

- 最後に、学生へのアドバイスをお願いいたします。

いろんなことにチャレンジしてみてください。勉強や部活、コンテストなど何でもいいです。そして、自分のやりたいことを見つけてください。皆さんの活躍を楽しみにしています。



### 菱岡 憲司 研究室（一般教育科）

- 「北窓書屋」、拝見させていただきました。たくさんのお本を読まれているようですが、好きな作家とその魅力を教えていただけないでしょうか。

好きな作家を一人に絞るのはむずかしいので、国ごとに一人ずつ挙げるとモーム（英）・バルザック（仏）・マン（独）・ドストエフスキイ（露）・フォークナー（米）あたりでしょうか。日本だと、村田喜代子・村上春樹・足立圭一・野村進・星野博美など。魅力は多岐にわたりますが、日常に根ざしながら異なる価値観・世界観を示しているものが好みです。

- さて、現在の研究テーマとその概要を教えてください。

専門は日本近世文学（江戸文学）です。なかでも馬琴（『南総里見八犬伝』で有名）とその友人の小津桂窓（映画監督小津安二郎の先祖）の研究がメインです。江戸時代は「雅俗」という価値基準を抜きにしては、なにもわかりません。こちらでも、異なる価値観を追求することに魅力を感じます。

- 現在の研究を始めるきっかけとなった本はありますか？

馬琴の『傾城水滸伝』でしょうか。中国白話小説『水滸伝』（中高生の頃より愛読）の百八人の主人公をすべて女性に置き換え、日本を舞台に話を展開するという離れ業をやってのけてます。

- 研究で心がけていることをお聞かせください。

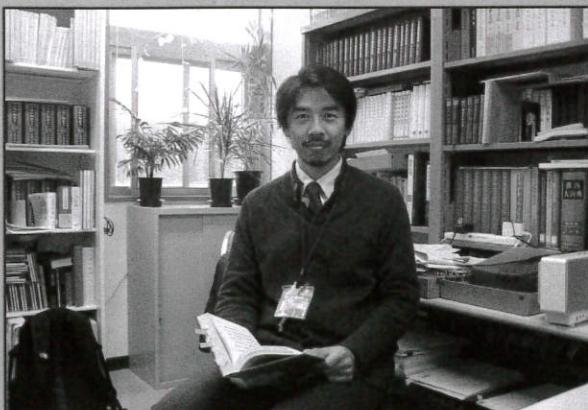
手間を惜しまないこと、無駄をおそれないこと、つまり時間をかけることです。研究は頭のキレも大事ですが、それよりも努力努力努力。継続と努力あるのみです。

- 新たに興味を持たれていることや、これからやってみたいことはありますか？

プライベートでは、自転車ですね。学問においては、江戸時代における文芸（フィクション）と学芸の関係をもういちど見直したいと思ってます。

- 最後に、学生へのアドバイスをお願いいたします。

人生、成り行きです。5年後の自分は、きっと5年前に想像したとおりではないでしょう。しかし、与えられた環境・条件のなかでベストを尽くし、結果を残せば、充実した人生を送れるはず。そのためには自分の好みを知り、好きなことをする時間を作り、すこしづつでも増やしていくことです。いまがチャンスですよ。



## シリーズ

## 企業(卒業生)訪問

オムロンリレー・アンド・デバイス(株) (熊本県山鹿市杉1110番地)

今回の企業訪問ではオムロンリレー・アンド・デバイス株式会社にお邪魔して、電子情報工学科卒業生の佐藤隆弥さん(16期)、小堀文さん(17期)、石山珠子さん、植尾真帆さん(ともに18期)にお話を伺いました。

(聞き手: I科 森 紳太郎)

### ■はじめに、この会社の事業内容について教えてください。

**小堀** 普通は手で操作するスイッチを電気的にON/OFFする装置をリレーと言います。弊社ではいろいろな種類のリレーを製造していて、TVのリモコンなどの家電製品や通信機器、自動車のウインカーなど様々なところに使われています。

### ■それでは皆さんが携わっている仕事の内容について教えていただけますか?

**佐藤** 私はリレーの製造工程で、実際に商品を造っています。

**小堀** 車載品保部で、お客様からのクレーム対応やラインの工程管理を行っています。

**植尾** 商品技術部でお客様の要望に応えるためにリレーの特性試験や耐久試験などを行っています。

**石山** 私も商品技術部で、市場に出ているリレーをより良くするために改良する仕事をしています。

### ■それぞれの部署で活躍していますね。では、こちらの企業を選んだ理由は何でしょうか?

**小堀** 地元の企業だったと言うことと、ハンドボールなどで地域貢献があり、子供の頃から親しみがあったからです。

**植尾** 九州内で就職先を探して、知り合いが多かったことと、リレーは学生実験で使ったことがあって親しみがあったことです。

**佐藤** 出身が熊本県宇土市なので、熊本県内であることが最大の理由でした。

**石山** 私は、最初は進学希望だったので、就職活動を始めたときにリクルートの窓口としてここがあつたことと、将来もずっと働ける場所だと考えたからです。

**女性一同** 「結婚しても続けられる仕事」というのもこの会社を選択した大きな理由ですね。

### ■では次に、さんは就職してそれほど時間は経っていませんが、その中でも印象に残っていることを教えてください。

**佐藤** 就職して一年目に、所属する部署で1000万円の新しい設備を導入し、それがきちんと稼働するか確認しながら他の部署と協力して立ち上げたことです。

**小堀** 品保の仕事では、お客様が監査に見えるので、それに向けて調整したり書類を作成したりします。最初の頃は、装置を使ったことが無くてどういうものか理解していなかったのですが、周りの方々に親切に教えてもらったことです。

**石山** 新入社員研修で、グループみんなで製造現場を改善していくという課題は、新入社員だから見える無駄を実際に指摘することもあって辛い部分もありましたが、学生と社会人の違いを感じて社会人らしくなれたと思います。

**植尾** その新人研修を通じて24名の同期入社の人たちと仲良

くなれました。その一方でいろいろなものをいっぱい壊しましたけど。

■すでに社会人として充実した経験を積まれているようですね。高専での勉強や経験が活きていたり、もっとやっておけば良かったと思うことはありますか?

**石山** 電磁気学や電気回路、物理、数学などいろいろな分野が役に立つので、もう一度しっかり勉強したいですね。それから、報告書は表計算ソフトを使って書いていますので、使いこなせるようになっておけば良かったです。

**佐藤** 私は工業高校からの編入生だったので、高専は高校と違って留年があるので諦めない精神が身につきました。ただ、社会人はもっと厳しいです。

**小堀** プログラミングやシーケンス制御の実験、オシロスコープを使ったことなど。そして実験は考察を自分なりに考えてきちんと文章を書くことが大事です。

**植尾** 英語は海外とのメールのやりとりなどに絶対必要です。最初にTOEICの点数を聞かれますし、「英語をやらないとだめ」と言われます。

### ■これも実感のこもったご意見ですね。では最後に後輩たちへメッセージをお願いします。

**植尾** 学生会や部活動で人脈を広げた経験が役に立っています。学生時代は勉強だけじゃないので頑張って欲しいです。

**小堀** あいさつや返事の言葉が出る人は上司に親しみを持つて目をかけて貰えます、そして負けん気があればなんとかなるし、そういう姿勢に対しては周囲から手助けしてもらえます。

**佐藤** この会社には出身高校の会があります。有明高専会を作りたいのでどんどん入ってきて欲しいですね。高専の評価は高いのでしっかり勉強してください。

**石山** 有明高専という縛を深めていきたい。この会社は全力をあげて若い社員をサポートしてくれる所以、自己成長ができる良い会社だと思います。

■お忙しいところを集まっていたとき、会社や自分のことを熱く語ってくれてありがとうございました。皆さんの話しぶりからも、充実した人生で輝いている様子がびしぶし伝わってきて楽しかったです。今日はどうもありがとうございました。



## デザインコンペティション

建築学科 小野 聰子

11月12日(土)・13日(日)に、『全国高等専門学校デザインコンペティション2011 in 北海道』が、釧路市観光国際交流センターで開催されました。今年度は、釧路工業高等専門学校を主管校とした北海道にある4高専による共同主催で、『ひらく』をメインテーマに、環境・構造・空間・ものづくりの4部門でコンペティションが実施されました。

本校からは構造部門に、校内予選会で優勝した建築学科3年生チーム(メンバー:池田・一木・江口・櫻木・播磨)が出場しました。

構造部門の今回のテーマは、『片持構造物の強度コンテスト』でした。8mm×8mm以下の断面を持つヒノキ材と指定された接着剤により、総重量が300g以内となるような『片持構造物』の模型を製作して、その製作模型の耐荷性能およびデザインを競う内容でした。本校チームは、釧路に生息する『丹頂鶴』をモチーフに模型を製作して、『鶴』という作品で大会に挑みました。



出場学生と製作模型



仕様確認の様子



載荷性能試験の様子

## 冬季球技大会

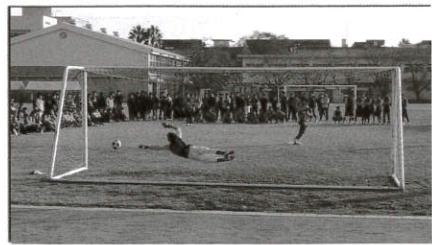
体育局局長 4M 中川 陽平

12月14日(水)に冬季球技大会が行われました。今回は久しぶりに晴天に恵まれ、サッカー、男女バスケットボール、卓球、ハンドボールの5種目が競われました。

競技では、競技者を応援する姿が多く見られ、学校全体で球技大会を盛り上げることができました。また、来校中のシンガポールポリテクの学生もサッカー競技に参加し、国際交流ができました。



<b>最優秀クラス</b>	<b>4E</b>
<b>優秀クラス</b>	<b>5M, 5E</b>
<b>優勝</b>	<b>MVP</b>
<b>サッカー</b>	<b>5E</b>
<b>男子バスケ</b>	<b>古賀 壮一郎</b>
<b>女子バスケ</b>	<b>佐々木 愛</b>
<b>卓球</b>	<b>2-1</b>
<b>ハンドボール</b>	<b>5M</b>
<b>中嶋 知成</b>	<b>堀川 源樹</b>
<b>新開 友大</b>	



## 専攻科ポスターセッション

専攻科の特別研究を広く学内・外に公表し、その内容と成果を問い合わせ、一方で専攻科のPRを兼ね、1月12日(木)・13日(金)に、本校総合研究棟総合研究室で第10期生26名のポスターセッションを開催しました。2日間とも研究内容紹介のポスターを常時展示し、昼休みと放課後には、担当者が学外からの来校者、本校教職員や在校生に説明しました。

今年は昨年・一昨年と違い、比較的穏やかな気候の中で開催できました。それでも1日目の来場者はそれほどでもなかつたのですが、2日目の来場は多く、矢継ぎ早に説明を求められ、専攻科生も満足できました。

## 体育系部活動リーダー研修

学生主事 中島 洋典

後期中間試験の最終日である11月29日(火)の14時から、3年振りとなる体育系部活動リーダー研修が開催されました。今回は活動中の事故に対応する技量の向上のための救急救命処置法の実技講習会と、スポーツ選手の食生活に関する講演会を実施しました。当日は部活動代表の学生をはじめ、部活動顧問・学生課・支援センターの教職員も含め57名が参加しました。

救急救命処置法の実技講習会は第一体育館において実施しました。大牟田市消防署から派遣された講師毎に参加者全員が6班に分かれて、心肺蘇生法とAED操作を中心とした実技を経験しました。参加者の多くが初めての実技講習で最初は戸惑いもあったようですが、次第に恥ずかしさも消えて積極的に

取り組めた実技講習会となりました。

講演会は会場を視聴覚室に移し、本校食堂の委託業者である魚国總本社から管理栄養士の永戸智子さんを講師にお招きして、「強くなるための食事選び」の題目で講演を行っていただきました。日頃何気なく摂っている食事も、スポーツ選手にとっては試合に勝つための大変な要素であると再認識させられた講演でした。

定期試験直後の疲れが残る中での今回の研修会でしたが、参加した学生諸君がこの研修会をきっかけに各部活動をますます盛り上げ、有明高専の体育系部活動の活性化につながればと期待しています。



普通救命講習の講義



心肺蘇生法の実技



ための食事選び  
魚国總本社  
永戸智子  
管理栄養士

管理栄養士の方による講演

専攻科長 北岡 敏郎

## 吹奏楽部定期演奏会 吹奏楽部部長 4C 森 崇彰

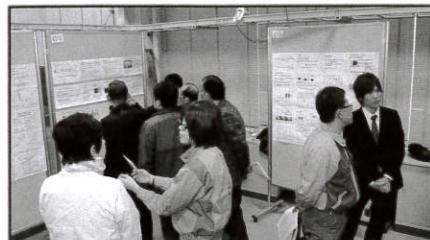
取組になりました。学外の地域活性化センターの職員や地元企業からの来場もあり、地域に密着したテーマについて熱心に説明を受けておられました。

学生諸君の説明は、専門外の私にもよくわかるようにかみ砕いて、必要なところを要領よく説明する仕方、プレゼンテーション力は一昨年・昨年にもまして向上していますし、昨年改善の課題になったポスターも、スペースを十分活かして充実した内容を示す工夫がされていたと感じました。ただ、持ち場を離れるややシャイな学生諸君もいたようです。何はともあれ、2年生諸君ご苦労様でした。

吹奏楽部は1月28日(土)に大牟田文化会館大ホールで第43回定期演奏会を行いました。

今回のテーマは「Story」。皆さんに私たちが音楽で作り出した物語を聞いて、見てもらいたいと思い、このテーマにしました。

また、開演時間を午後4時30分と例年より2時間早めましたが、大むね好評のようでした。このように毎年開催できるのもご協力いただいた諸先生方をはじめ、企業、OB、OG、保護者の皆さま、また、ご来場くださる皆さまのおかげです。これからも部員一同日々精進し、この定期演奏会を続けていきたいと思います。



# 新学生会



今回、新会長になりました4年建築学科角田雅季です。

この度、皆さんの応援や支えのおかげで会長になることができました。前学生会の放送局局長としての経験、体育祭での放送パーティーリーダーとしての経験を活かしていきたいと思います。正直なところ、自分は皆さんを引っ張っていくようなタイプではありません。しかし、学生会役員、学生の皆さんの意見をどんどん取り入れて、学生会運営を支えていこうと思っています。そして、その支えるということが、引っ張っていくということに繋がればいいと思っています。また、副会長の2人をはじめ、学生会役員の皆さんはとても協力的で頼もしいので、良い意味で、様々な人に頼りながら頑張っていこうと思います。

新学生会の目標は、学生会を学生にとってより身近な存在にすることです。その身近な存在というのは、今までの、学生会と学生というお互いが離れた存在になっている運営状態ではなく、学生会局長から学生会役員へ、学生会役員からクラス委員へ、クラス委員からクラス全体へという流れを常に意識した運営状態のことです。そうなるためにも、まずは学生会内の局同士の交流を増やしていきます。そして、各クラスへの連絡は、クラス委員にどんどん協力していただこうと考えています。

また、取り組まなければいけない具体的な内容としては、学生のマナーアップです。数年前から取り組んではいるのですが、なかなか形になっていないのが現状です。特に、通学路や校内のポイ捨て、行き帰りのバスの乗車状況がよくありません。これらに関しては、皆さんもご存知の通り、地域の方々から多くの苦情を受けています。有明高専のイメージアップのためにも、学校全体でマナーアップをしていきましょう。ご協力よろしくお願いします。

最後になりましたが、学生会役員の構成を紹介します。3役を合わせ、役員全員で49人です。新規役員が集まってくれたおかげで、前学生会より多い人数になりました。49人全員で、さらには、学生の皆さんを巻き込みながら何事も取り組んでいこうと思います。1年間どうぞよろしくお願ひします。

## 学生会長 4A 角田 雅季

平成24年度 学生会新役員		
会長	4 A 角田 雅季	
副会長	4 E 吉住 亮祐	3 M 柿原 大輝
体育局	4 M 中川 陽平	4 M 大仁田恵悟
	4 I 徳島 光一	3 M 中村 太紀
	3 M 烏越 航	3 M 野村 一貴
	2 A 森 康貴 (2-1)	1 M 今村 匠
放送局	3 C 萩西 夏樹	2 I 日高 大成 (2-5)
	4 A 荒木 理沙	3 A 渡邊 真珠
	1 I 中嶋 智保	1 C 野田 望由
文化局	4 E 平島 凌	2 A 青嶋 崇 (2-3)
	1 M 川口 元貴	4 E 吉開 貴裕
	3 I 西村 珠美	3 I 東 優子
会計局	4 I 古賀 亨	3 E 宮原 佑輔
	4 M 吉田 和希	4 A 江口 舞
	1 M 江上 俊	1 A 吉山 玲奈
渉外局	3 A 百田 直美	2 I 安部 成就 (2-1)
	4 I 成清 大介	3 E 江中 祐貴
	3 E 村上 めぐみ	3 I 森 さくら
	2 E 小田原 裕 (2-4)	1 M 西久保友紀
報道局	4 E 三宅 健吾	2 I 加藤 寿大 (2-4)
	2 A 堤 大智 (2-4)	4 E 高田 紘武
	4 I 橋本 和樹	1 M 西津 優太
整美局	3 M 堤 翔太	3 A 池田 辰弥
	2 M 竹下 雄貴 (2-4)	4 E 藤田 啓太
	4 A 中村 あかね	1 M 高尾 晃平



## 学生会役員研修

### 学生主事補 出口 智明

12月10日(土)に新旧の学生会役員18名と学生主事室3名により、学生会役員の研修が行われました。

初めに前会長、前局長から反省点が報告されました。報告の中では前会長の秀山君からあいさつ運動の徹底、学内のゴミのポイ捨て、食べ歩きの禁止などの全体的な反省点の報告があり、その後、各局長から各局での反省点が報告されました。

次に新会長、新局長の自己紹介の後、各局の運営、仕事内容、連携などを踏まえて各局長から抱負が述べられました。また、新会長の角田さんから「しっかり仕事を分担し、低学年が仕事を覚え、将来の学生会を引っ張っていけるように連携し、良い学生会にしたい」、新副会長で初めて学生会に入った吉住君からは「会長にだけ仕事を任せるのではなく自ら積極的に仕事を行い、会長、副会長で3人一脚の連携で行いたい」と抱負が述べられました。

続いてこれらの活動について議論され、「あいさつ運動は継続する」、「駐輪場などのポイ捨てが多い個所など学内のゴミ拾い活動を行い学生にアピールをして、ゴミのポイ捨て、食べ歩きがなくなるようにする」、「学生会内での連絡会議を月1回のペースで行い、各局の連携を図る」などのいくつかの活動予定が決まりました。

最後に学生主事室からの意見が伝えられ、学生主事の中島先生から九州の高専の学生会の活動状況、運営について説明があり、新学生会に対して「学生会行事ではもう少し学生会主体での運営ができるよう」いう要望が伝えられ、現状の問題点や改善についての話があり、本研修会が締めくくられました。本研修をもとに、より良い新学生会活動が実現することを期待します。



# 岱明寮だより

寮長あいさつ 4I 高田 翔太



皆さんこんにちは。新しく寮長になりました4年電子情報工学科の高田翔太です。

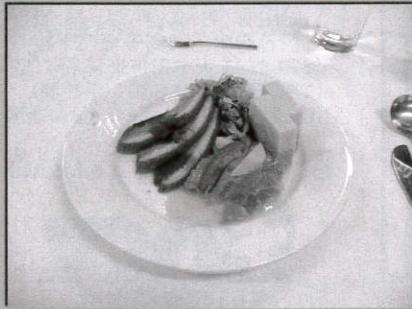
最近では1年生の挨拶もよくできています。とてもうれしく思っています。1年生に対しての指導は、厳しい点もありますが、共同生活を通じて同級生や先輩とのかかわり方、社会生活に必要なことなどを学ぶことを目標としていますので、一緒に頑張っていきましょう。また、寮生がより良い寮生活を過ごせるように、寮生会を中心となって寮を改善していくことを思っていますので、よろしくお願いします。

寮生会役員 平成24年1月26日現在			
寮長	4I 高田 翔太	4A 熊添 葉	
副寮長	3A 櫻木 卓矢	4A 熊添 葉	
局名	局長	副局長	
会計	4E 三宅 健吾	3M 下村 槟哉	
整美	4M 西村 太志	3A 高田 雅人	3A 藤本ちひろ 2M 佐藤 健作
			現1年生から選出予定
報道	4A 西村 拓也	3E 三浦 唯我	
給食	4A 西田 哲朗	3A 田中 弘毅	2C 江副 さき 2A 衛藤 優希
管理	4E 草場 勇介	3E 宮原 佑輔	
娯楽	4I 德島 光一	3C 石橋 佑太	3C 梶山 翠
棟名	棟長	副棟長	
銀杏	4A 青山 洋輝	3M 堤 翔太	
紅葉	2M 四ヶ所祐至	2M 高田 優介	
青葉			現1年生から選出予定
若葉	3A 櫻木 卓矢	3E 福井健太郎	
桜	4A 熊添 葉	4I 神家 早苗	
指導寮生	3A 櫻木 卓矢	3E 福井健太郎	3E 森田 雄貴
桜棟指導寮生		3E 村上めぐみ	3I 東 優子

\* 棟長・副棟長・指導寮生は平成24年4月から平成25年3月まで

## テーブルマナー講習会 寮務主事補 下田 誠也

12月3日(土)に5年生を対象(参加者18名)として、本校修己館の食堂にてテーブルマナー講習会が行われました。株式会社魚国総本社の九州支社熊本事務所第一事業部の方々を講師としてお招きし、西洋料理や食事のマナーについて説明していただきました。参加した寮生はスーツ姿で緊張しながらも、フルコースの料理を美味しく味わいながら、社会人としてのマナーのひとつを学びました。

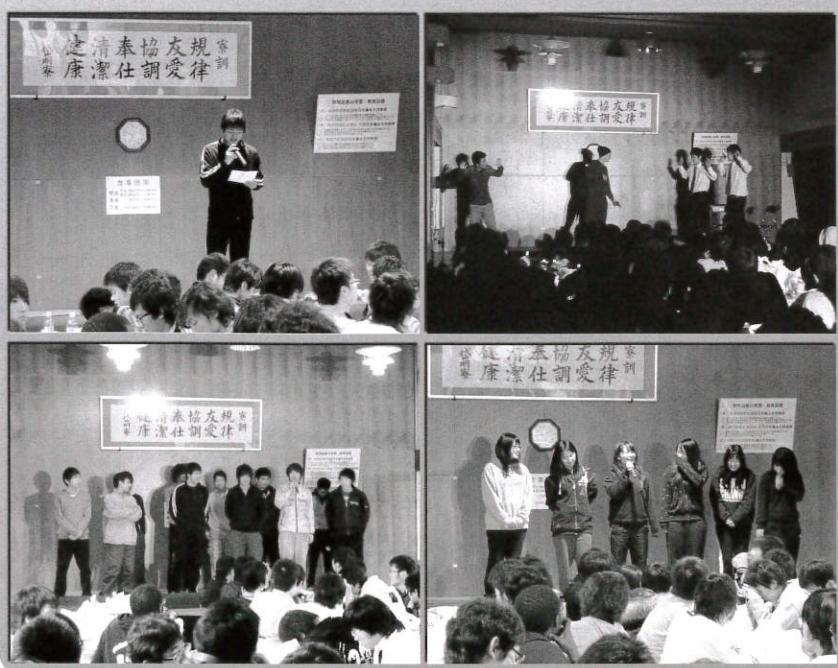


## 寮生送別会

寮務主事補 下田 誠也

1月21日(土)に、恒例の送別行事(予餞会)を実施しました。第1部では、校長先生によるあいさつに続き、全員で会食をしながら、プロジェクトを使って5年生の思い出を綴ったメッセージの上映が行われました。その後、5年生代表によるあいさつと記念品贈呈が行われました。第2部では、1年生と2年生の5グループによる余興と5年生によるスピーチ、余興の最優秀グループと最優秀演技賞の表彰式が行われ、その後、万歳三唱で閉会となりました。

5年生の皆さん、卒寮おめでとうございます。岱明寮での生活は皆さん的人生の大きな財産となることでしょう。今後の健康とご活躍を祈念します。





## 3C松本君、3C竹下君 作文コンクールで入賞

「第13回 後藤新平・新渡戸稻造記念拓殖大学 高校生・留学生作文コンクール」で、1500件を越える応募の中から3C松本光君の「私が今できる社会貢献」が入選に選ばれました。また、広島修道大学作文コンクール高校生の部において、3C竹下美海君の「いま、なすべきこと」が、234編の応募の中で佳作に入賞しました。

松本・竹下両君は、ボランティア愛好会に所属し、大牟田市内外のイベントで体験したボランティア活動を通して考えたこと等を作文に書いています。



## 建築設計競技で多数の入賞

福岡県建築士事務所協会主催の建築設計競技で多数の3A学生が入賞しました。今村裕一君が福岡県教育委員会賞、トウイナマシコ・ジョナサン(ジェイジエイ)君が太宰府市長賞、百田直美さんが福岡県建築住宅センター理事長賞、藤本ちひろさんが会長賞、小御門真伍君が福岡県建築士会会長賞、江口信君が日本建築家協会九州支部支部長賞に輝きました。その他に7名が入賞しました。今回の入賞者は他の高校生を含め17名で、3A学生は13名も入賞し、ほとんどの賞を獲得したことになりました。



## ベンチャー・ビジネスプランコンテストで3年連続入賞!

22の大学・高専から48プランの応募があった第11回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテストで、5I井上陽平君、5I古賀直樹君、5I杉本恭佑君が「技術教育を組み込んだ福祉機器の開発・販売事業 -障害のある方々一人一人が最適な支援装置を所持し、自己表現・実現できる社会を目指して-」で、優秀賞を受賞しました。

一昨年の九州経済産業局長賞、昨年の優秀賞に続き、3年連続の受賞となりました。



## 編集後記

長い冬も終わりに近づき、春風が待ち遠しい季節となりました。

この冬は例年以上に厳しいものでしたが、有明高専では、ロボコン全国大会出場、プロコン競技部門での快挙、演算増幅器設計コンテストで高専生史上初の1位など、うれしいニュースが多くありました。今号では、そんなみなさんのこの冬の活躍をまとめています。これから始まる新しい季節に思いを馳せるきっかけになれば幸いです。

春は出会いの季節であると同時に別れの季節でもあります。卒業を控えたみなさんは新しい生活への期待と慣れ親しんだ高専を離れる寂しさを感じているのではないでしょうか。別れは寂しくつらいものですが、自分にとってどれほど大切なものが見つめ直すきっかけとなり、さらなる繋がりを育んでくれることとなるでしょう。

学生生活はあっという間に過ぎていきます。自分の描く未来に向かい、精一杯毎日を楽しんでください。

(広報室 中園 洋子)

## 留学生送別会

2月2日(木)、修己館食堂で、留学生の5Mアルマン君と福島高専から転学してきた5Mカマルル君の送別会が行われました。

立居場校長先生や日本語の授業を担当された坂口先生からはなむけのお言葉をいただき、4Iアマー君、チューターの5M徳久元氣君と5M鈴木拓磨君が思い出を語ってくれました。アルマン、カマルル両君はあいさつの中でクラスメートや教職員への感謝の気持ちを述べてくれました。

飲み物とお菓子での歓談後、担任の堀田先生から二人に激励の言葉をいただき、同時にカマルル君には福島高専の先生方からのメッセージと学生さんたちからの寄せ書きが贈られました。アルマン君とカマルル君の今後の活躍を祈念しています。

(国際交流委員長 安部 規子)



## 有明高専だより 第136号

平成24年2月21日

編集:有明高専広報室  
発行:有明工業高等専門学校  
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150  
TEL 0944-53-8861(学生課)  
<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

花咲く技術を-Here are Lights-

